

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

公表：令和5年3月27日

事業所名 One step smile 宮前教室

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	4		1	なるべく広いスペースづくりをするために収納できる机やイスなどを使用し確保に工夫をしている。
	2	職員の配置数は適切であるか	3	1	1	基準は満たしているが、もう一名いれば、より良い支援や活動の幅を広げることができそう。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	2	3		段差は洗面台の箇所のみであり、都度介助しながら使用している。その他は特に不備なし。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	2	3		積極的にコミュニケーションを取り、支援方法や活動内容をよりよいものにできるよう話をしている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務	1	4		アンケートは実施している。日々連絡帳を用いて意向等をうかがっている。アンケートを活かして保護者とのコミュニケーションを積極的に取るように努める。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	1	4		今年が2回目で昨年度はHPへの掲示をしているものの、新たな職員への周知ができていなかった点が反省点。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		4	1	現在第三者機関は活用していない。今後検討する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	2	3		研修は実施しているが、頻度を増やしコミュニケーション量を増やしたり、支援の資質向上につながるワークを取り入れていく。
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイ	4	1		管理者を中心にやりがちではあるが、作成はしている。今後職員全員で分析しサービス計画を作成できるように資質向上に努める。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	1	3	1	外部ツールは使用していない。今後検討の余地あり。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	4	1		利用者によってできるプログラムが限られているので、利用者との予定を併せてプログラムを行う日を考えたりみんなが楽しめるよう工夫をしている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	5			固定化している内容もあるが、違う取り組みやいつもと違う内容などを取り入れながら工夫をしている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	5			平日は学校後で疲れている利用者が多いので、プログラムや課題は短期間で集中できる内容にしている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し	5			個人活動では、できることを増やして自信がつくように。集団活動ではコミュニケーションが取れるように計画している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認してい	4	1		行っている。利用者の特性を把握したうえで突発的な行動や気を付けなければならない行動を把握し、共有しその行動を阻止できるよう対策を考えることが必要。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を	2	3		話し合っていることは多いが、口頭ベースでのやり取りが多いので、細かく記録したりノートに書き残したりしていくように努める。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	5			連絡帳を記録として残している。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携 関 係 機 関 や	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	2	3		モニタリングは実施できているが、計画の見直し等頻度高く進めるように努める。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	2	3		ガイドラインをベースに支援を行っている。定期的にガイドラインの読み合わせを行い、スタッフ全員の啓蒙を図る。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加	2	3		適宜話し合いをし、適任者に参加してもらっている。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時	4	1		学校と共通のある、支援内容を積極的に行っている。学校の様子もわかっており、運動性のある支援を心がけている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	3	2		医療的ケア児は現状在籍がないです。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相	2	3		保護者を通して必要があれば、学校に訪問し、利用者の支援方法について話あう。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それま	4	1		情報連携は保護者の方経由のみとなっており、連携は密にできていない。今後は直接お話しする機会をいただくスムーズな連携を心がける。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	4	1		西部療育センターとのやり取りはあるが、その他事業所はない。今後積極的に連携を取っていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	2	3		外活動で子供との関わりがたまに発生するが、自発的な交流は特段できていない。

保護者との連携	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか		4	1	コロナ禍のため参加していない。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		1	連絡帳や電話、LINE等でのやり取りをしており、共通理解ができるようコミュニケーションを取っている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	1		2	具体的な支援は行えていないが、教室内での成功事例や失敗事例などの共有をしている。また、家庭内での様子やかかわり方などはヒアリングをし、適宜相談に乗っている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	2		3	契約時にご説明をしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	2		2	1	コミュニケーションは取れているが、一部お仕事の関係などで時間が取れずお話しする機会が取りづらい保護者の方もいらっしゃるため、こちらから積極的に働きかけご迷惑にならない範囲で時間調整を頂くよう調整する。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか			1	3	参観などを行い場所づくりをする必要性は感じている。また家族で参加できるような行事などを作ることも検討している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦	5				管理者、指導員の連携は取れるようにしており、長期化しないよう迅速に対応する体制を整えている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信し		4		1	HP上で低頻度での発信のみとなっているので、今後は会報やお便りを作成し、配布できるよう努める。
	35	個人情報に十分注意しているか	5				鍵付き書庫、ロッカーに保管しております。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	3		2		
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		1		4	コロナ禍のため機会がない状況。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知し	4		1		マニュアル等周知しております。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	5				訓練は行っている。より利用者の訓練になるように事前に準備をし、避難経路やもしもの対応なども体験できるような訓練を今後行っていきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	4		1		年1回は必ず実施している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に	2		3		行政にアドバイスを頂いたうえ、計画を作成している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	4		1		保護者からお伺いしている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	5				起きた後共有し、対策ができています。